

現代的な課題を主体的に追究する道徳教育の在り方 — 道徳の時間と教科等の関連を生かした学習プログラムの開発を通して —

東広島市立福富中学校 上垣内 由香

研究の要約

本研究は、現代的な課題を主体的に追究する道徳教育の在り方について考察したものである。文献研究から、主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」を取り入れ、道徳の時間と現代的な課題に関する内容を扱う教科等を関連付けた複数主題複数時間扱いの単元にすれば、生徒自身が現代的な課題を主体的に追究する道徳教育になることが分かった。そこで、追究していく学習テーマを設定し、「課題発見・解決学習」の過程に道徳の時間と教科等を位置付けた学習プログラムを開発、実践した。また、その追究過程が記録できるようテーマノートを作成した。その結果、「課題発見・解決学習」の過程が概ね有効であることが分かった。その一方で、道徳の時間と教科等の関連の生かし方に課題が残った。

そこで、道徳の時間で見いだした課題の解決策を教科等の学習で模索できるよう追究過程とテーマノートの改善を図った。その結果、生徒は自らの関わりで多面的・多角的な視点からよりよい解決策を模索し、いかに生きるべきかを考え続けることができた。このことから、道徳の時間と教科等の関連を生かした学習プログラムは、現代的な課題を主体的に追究することに有効であることが分かった。

キーワード：現代的な課題 「課題発見・解決学習」 学習プログラム テーマノート

I 主題設定の理由

「広島版『学びの変革』アクション・プラン」では、変化の激しい社会において、自ら深く考え、知識や情報を統合して新しい価値を創り出し、多様な他者と協働し、学び続けるなど、これからの中学生を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」の推進を目指している。また、広島県教育資料（平成29年、以下「教育資料」とする。）では、道徳科における「主体的な学び」とは、「児童生徒がねらいとする道徳的価値について課題意識をもち、自分の生活を見つめながら他者と議論することで、道徳的価値の理解を深め、自己の生き方について考えを深める学習である。さらに、理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付け、その結果を日常生活の行動や習慣に結びつけたりしていくことである。」¹⁾と示されている。

昨年度、本校生徒に実施した道徳の時間に関するアンケートでは、「自分のこととして考え、問題解決についてしっかりと考えることができた」と答えた生徒は34.6%、「様々な見方で考えることができた」と答えた生徒は50.0%と低かった。これは、道

徳の時間の学習において、自分のこととして考えられる課題の設定、問題解決に向かう思考過程の工夫、多面的・多角的な視点から考え、議論する学習を促す指導が不十分であったためと考える。

現代的な課題を扱った学習について、栗林芳樹（2016）は、生徒が自分との関わりで実感を伴って考えることができ、他者と協働し共に考え、議論しながらよりよい解決策を考え続けようとする姿勢を育むための核となる学習であると述べている。これは、今まさに求められている資質・能力の育成に繋がると考える。

また、中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成29年、以下「29年解説」とする。）では、現代的な課題の扱いについて、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等における学習と関連付け、答えが定まらない問題を生徒が様々な価値の視点から考えを深めていくことができるような取組が求められていると示されている。

そこで、道徳の時間と教科等の関連を生かした複数主題複数時間の学習プログラムを開発すれば、現代的な課題を主体的に追究する道徳教育になると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 現代的な課題を主体的に追究する道徳教育

(1) 現代的な課題とは

現代的な課題とは、生涯学習審議会「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について(答申)」(平成4年)において、社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために、人々が学習する必要のある課題と示されている。

「29年解説」では、現代的な課題とは、解決の難しい、答えの定まっていない問題や葛藤のある、現代社会を生きる上での課題であると示されており、現代的な課題との関わりで取り組んでいる教育課題として、食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育等を例示している。また、科学技術の発展に伴う生命倫理の問題や社会の持続可能な発展を巡っては、生命や人権、自己決定、自然環境保全、公正・公平、社会正義など様々な道徳的価値に関わる葛藤や対立のある事象も多く、特に「遵法精神、公徳心」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際貢献」「生命の尊さ」「自然愛護」などについては、発達の段階に応じて、積極的に取り上げることが求められている。指導の際は、課題を自分との関係で捉え、その解決に向けて考え方を育てる意欲や態度を育てることが大切であると示されている。

これらのことから、現代的な課題とは、社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために学習する必要のある現代社会を生きる上での課題であり、様々な道徳的価値に関わる葛藤や対立のある事象も多い。そのため解決が難しく、答えが定まっていない。だからこそ自分との関係で捉え、その解決に向けて考え方を育てていかなければならぬ課題であると考える。

(2) 現代的な課題を主体的に追究する道徳教育とは

栗林(2016)は、現代的な課題には、答えが一つではない課題や、多様な見方や考え方ができる課題がたくさんあるとし、その課題の解決や課題に対する自己の関わり方を考えるに当たっては、必然的に、他者と協働し、議論しながら、よりよい解決策を模索し導き出していくと述べている。

「29年解説」では、道徳的価値を観念的・一面的に理解するのではなく、生徒が自らの関わりで多面

的・多角的に考え、いかに生きるべきかを自ら考え続けることが主体的な学びにつながると示されている。また、道徳教育は、よりよく生きるために基盤となる道徳性を養うため、特別の教科である道徳(以下「道徳科」とする。)を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本とし、自ら考え続ける姿勢こそが道徳教育の求めるものであると示されている。

以上のことから、現代的な課題を主体的に追究する道徳教育とは、現代的な課題について道徳の時間のみならず、教科等においても自ら考え続けていくことと捉える。その際、道徳的価値を観念的・一面的に理解するのではなく、生徒が自らの関わりで多面的・多角的な視点から考え、他者と協働し、議論しながら、よりよい解決策を模索し、いかに生きるべきかを自ら考え続けることが重要である。

(3) 現代的な課題を主体的に追究するためには

「29年解説」では、現代的な課題を扱う場合は、関連する内容項目の学習を踏まえた上で、教科等と関連付け、様々な価値の視点で学習を深めることや、生徒自身がこれらの学習を発展させるなどして、考え方を深めていくことができるような取組が必要であると示されている。

田沼茂紀(2017)は、中学校教師個々のもつ教科専門性とその指導力が、生徒一人一人の学習好奇心を刺激し、固有の道徳性を高めていくとし、担当教科に関わる学習内容や、教科教育学・教科内容学の知見が、生徒の道徳的資質・能力形成に大きく寄与すると述べている。さらに、田沼(2016)は、現代的な課題を指導する際は、他教育活動で取り上げられる内容と連動させ、複数主題複数時間扱いの単元として行う方が効果的であると述べている。

つまり、現代的な課題に関わる担当教科の教師と協働し、道徳の時間と教科等を関連付け、複数主題複数時間扱いの単元とすることによって、生徒自身がこれらの学習を発展させ、考え方を深め、主体的に追究していくことになると考える。

また、「教育資料」では、道徳科における主体的な学びには、生徒が道徳的な問題を自分事として捉え、議論し、探究する過程を重視する必要があると示している。その主体的な学びを促す教育活動として探究的な活動をしていく「課題発見・解決学習」を挙げている。さらに、この「課題発見・解決学習」には次頁表1に示すような活動が考えられると

しているが、これらの活動は順番が前後したり、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われたりする場合もあると示されている。

表1 「課題発見・解決学習」の過程⁽¹⁾

過程	学習活動
課題の設定	互いの願いや疑問等を共有して、実現や解消に向けて問題となっている課題を見いだす活動
情報の収集	既習の知識や技能を活用し、体験を通じた気付きや情報を蓄積する活動
整理・分析	蓄積した情報を整理・分析して思考する活動
まとめ・創造・表現	考えをまとめ、課題の解決策を創造し、他者に伝える活動
実行	課題の解決策を実施する活動
振り返り	新たな課題解決の挑戦へつながる活動

また、先述したように、学校における道徳教育は道徳性を養うことを目的としており、「29年解説」

では、この道徳性とは、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質のことであると示されている。そこで、本研究における学習プログラムには、表1で示した「課題発見・解決学習」の六つの過程のうち、〔課題の設定〕〔情報の収集〕〔整理・分析〕〔まとめ・創造・表現〕〔振り返り〕の五つの過程を取り入れることとする。なお、「広辞苑第六版」では、「探究」とは「物事の真の姿をさぐって見きわめること。」と示されており、「追究」と「探究」は同義と捉える。

以上のことから、主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」の過程の中に道徳の時間と教科等を位置付け、複数主題複数時間扱いの単元を開発すれば、現代的な課題を主体的に追究する道徳教育になると想え、本学習プログラムを開発することとする。

表2 各教科の学習において教科書で取り上げられている現代的な課題に関連する学習内容

教育課題	各教科	教科書で取り上げられている現代的な課題に関連する学習内容	
食育	保健体育科 技術・家庭科（技術分野）（家庭分野）	肥満、ダイエット、バイオテクノロジー、クローン技術による食の安全性、自然界にない生物の影響、欠食、過食、偏食、食事時間の不規則、食物アレルギー、遺伝子組換え食品、地域食材の活用など	
健康教育	保健体育科 技術・家庭科（家庭分野）	ドメスティック・バイオレンス（D V）、心的外傷後ストレス障害（P T S D）、放射線、生活習慣病、少子高齢社会、感染症、エイズ、ストレス、自殺、アレルギー、臓器移植、薬物等の依存性、シックハウス症候群など	
消費者教育	技術・家庭科（家庭分野） 社会科（公民的分野）	食品の安全性、食料自給率、フードマイレージ、食品ロス、消費者問題、フェアトレードなど	
防災教育	技術・家庭科（技術分野）（家庭分野） 理科 社会科（公民的分野）（歴史的分野）	心的外傷後ストレス障害（P T S D）、災害廃棄物、放射線、自然災害、災害から身を守る力、住まいの災害対策、自然災害、防災、火山活動による災害、災害に強いまちづくり、東日本大震災からの復興、交通安全・防犯対策、防災・安全など	
福祉に関する教育	技術・家庭科（技術分野）（家庭分野） 社会科（公民的分野） 数学科 音楽科 美術科	介護ロボット、ユニバーサルデザイン、過疎化、少子高齢化、アートリーチ、音楽療法、福祉制度など	
法教育	社会科（公民的分野）	憲法、権利、国際的な各種協定、選挙、法に関する学習など	
社会参画に関する教育	社会科（公民的分野） 技術・家庭科（家庭分野）	社会との関わり、災害に強いまちづくり、ボランティアなど	
伝統文化教育	美術科 音楽科 外国語科 技術・家庭科（家庭分野） 社会科（歴史的分野）	伝統文化の継承と保存、異文化理解、多文化共生、宗教・民族など	
国際理解教育	美術科 音楽科 外国語科 保健体育科 社会科（公民的分野）（地理的分野）（歴史的分野）	異文化理解、国際的なスポーツ大会、国際親善、世界平和、外国語コミュニケーション、地域文化の尊重、国際的な各種協定、日本の領土をめぐる問題など	
科学技術の発展に伴う生命倫理の問題	保健体育科 社会科（公民的分野） 理科	脳死、臓器移植、インフォームド・コンセント、尊厳死、安楽死、遺伝子技術、クローン技術、遺伝子診断、遺伝子やD N Aに関する研究、再生医学、遺伝子組換え技術など	
社会の持続可能な発展	美術科 保健体育科 外国語科 理科 技術・家庭科（技術分野）（家庭分野） 社会科（公民的分野）（歴史的分野）（地理的分野）	環境・エネルギー問題	ごみの問題、環境汚染、循環型社会、低炭素社会、自然共生社会、地球温暖化、公害、環境保全、地球環境問題、資源・エネルギー問題、砂漠化の進行、水・食料不足、海洋汚染、生態系への影響、人口増加など
		人権・平和	差別、人権侵害、社会的弱者の支援、少子高齢化、戦争・紛争、貧困・飢餓など

2 現代的な課題を主体的に追究するための道徳の時間と教科等の関連を生かした学習プログラム

(1) 道徳の時間と教科等の関連

ア 教科等と現代的な課題の関連

先述のとおり、「29年解説」では、現代的な課題を扱う際は、関連する内容項目の学習を踏まえた上で教科等と関連付け、考えを深めていくことができるような取組が求められると示されている。このことから、道徳の時間と教科等の関連付けを明らかにするため、まずは、教科等と現代的な課題の関連を明確にする必要があると考える。

そこで、先述した「29年解説」で教育課題として示されている課題について、本校で使用している第1学年から第3学年の各教科の教科書から、稿者が現代的な課題に関連する学習内容であると考えるものを抽出し、前頁表2に整理した。

表2を見ると、各教科において現代的な課題に関連する学習内容が数多く取り上げられていることが分かる。また、それらは他教科の学習と重複している、関連付いたりしていることから、現代的な課題を扱う際は、複数の教科を関連付けて学習することが効果的であると考える。

イ 現代的な課題と道徳の内容項目の関連

「29年解説」では、現代的な課題を扱う際は、複数の内容項目を関連付けて扱う指導によって、生徒の多様な考え方を引き出せるように工夫するよう示されている。そこで、現代的な課題と道徳の内容項目の関連を表2にある「科学技術の発展に伴う生命倫理の問題」を例に考えてみる。

まず、表2で示した「科学技術の発展に伴う生命倫理の問題」に関連する学習内容を学年別に整理し、表3に示す。

表3 「科学技術の発展に伴う生命倫理の問題」に関わる学習内容

	第1学年	第2学年	第3学年
保健体育科	-	脳死と臓器移植	-
社会科 (公民的分野)	-	-	インフォームド・コンセント、臓器移植、尊厳死、安楽死、遺伝子技術、クローン技術、遺伝子診断
理科	-	-	遺伝子やDNAに関する研究、再生医学、遺伝子組換え技術

保健体育科における「脳死と臓器移植」は第2学年の学習内容と関連させたトピックス掲載である。第3学年で取り上げられている現代的な課題は、社会科(公民的分野)では「2人権と日本国憲法」、理科では「2遺伝の規則性と遺伝子」の学習内容として掲載されており、第3学年において教科等の関連を図ることができると考えられる。ここでは、社会科と理科で扱われている現代的な課題について学習のねらいを明確にし、道徳の内容項目との関連を示す。社会科の「2人権と日本国憲法」は新しい人権に関する学習における「自己決定権」についての学習が現代的な課題と関連している。中学校学習指導要領解説社会編(平成20年)では、民主的な見方や考え方の基礎が養えるように、人間の尊重についての考え方を、民主社会においてすべての人間に保障されるべき価値を内容としてもつ基本的人権を中心にして深めさせることと示されている。このことから、道徳の内容項目における「C 公正、公平、社会正義」に関連すると考えられる。理科の「2遺伝の規則性と遺伝子」は、染色体にある遺伝子を介して親から子へ形質が伝わること、及び分離の法則について理解させることをねらいとしている。中学校学習指導要領解説理科編(平成20年)では、科学技術の進歩により、遺伝子組換え技術やDNA増幅技術などが活用され始めている作物の品種改良、医療、犯罪捜査などの今日的な課題にも触れながら、日頃から生命に関心をもたせ、生命を尊重する態度がより確かなものになるように指導することと示されている。これは、道徳の内容項目における「D 生命の尊さ」に関連すると考えられる。また、保健体育科や社会科で扱う「臓器移植」を例に考えてみると、村松聰(2002)は「事典 哲学の木」において、「臓器移植」に関わる臓器提供には、臓器提供に同意するかという問い合わせに対して、自分の体の提供には同意すると答える人が、家族の臓器提供には必ずしも賛成しないという問題があるとしている。それは、自分の体では死によって人格が失われるを考えても、家族の体は能力ではなく、人格を表現する姿と捉えているからであると示されている。したがって、生命倫理に関わる現代的な課題は道徳の内容項目「C 家族愛」との関連も考えられる。このように、教科の学習で扱われている現代的な課題と道徳の内容項目の関連を明確にしておく。

ウ 道徳の時間と教科等の関連を生かす指導時期

「29年解説」では、教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向をもつものである場合、学習の時期や

教材を考慮したり、相互に連携を図ったりした指導を進めると、指導効果を一層高めることが期待できるとし、指導の内容及び時期を配慮して年間指導計画に位置付ける工夫をするよう示されている。そこで、指導時期の設定について、表2にある「科学技術の発展に伴う生命倫理の問題」の場合で考えてみる。図1に所属校における道徳教育の全体計画別葉（各教科等における道徳教育の指導内容や時期を示したもの）より一部抜粋したものを示す。

	7月	9月
社会科（公民分野）	「1 現代社会と私たちの生活」 「2 私たちの生活と文化」 C 国際理解、国際貢献	「1 現代社会と私たちの生活」 「3 現代社会の見方や考え方」 B 相互理解、寛容
理科	「2 生命の連続性」 「2 遺伝の規則性と遺伝子」 D 生命の尊さ	「2 個人の尊重と日本国憲法」 「2 人権と日本国憲法」 C 公正、公平、社会正義
	【現代的な課題】 遺伝子やDNAに関する研究、再生医学、遺伝子組換え技術	【現代的な課題】 インフォームド・コンセント、臓器移植、尊厳死、安楽死、遺伝子技術、クローニング技術、遺伝子診断

図1 所属校における道徳教育の全体計画別葉より一部抜粋

理科は7月、社会科は9月の学習となっており、これらの学習の時期が近い。そこで、この時期に合わせて関連する内容項目について考える道徳の時間を設定すれば、理科と社会科の学習の関連を生かした単元を構成することができると考える。

(2) 道徳の時間と教科等の関連を生かした学習プログラム

ア 「課題発見・解決学習」の過程に位置付けた学習プログラム

「29年解説」では、現代的な課題には、様々な道徳的価値に関わる葛藤があるからこそ、多様な価値観の人々と協働して問題を解決していくという意欲を育むことが重要であると示されている。つまり、現代的な課題を追究していく過程の初期段階において、様々な道徳的価値に関わる葛藤に気付かせ、問題解決をしていくという意欲を育む時間にすることが重要であるということである。

また「29年解説」では、道徳科は、教科等で学習した道徳的諸価値を、人間としての在り方や生き方という視点から自分との関わりで捉え直し、自分なりに発展させていくとする時間であると示されている。つまり、追究過程の最終段階に、道徳的諸価値を自分との関わりで捉え直し、発展させる時間を

設定してカリキュラムを作ることは意味があると考える。

のことから、学習プログラムの追究過程においては、初期段階と最終段階に道徳的価値について考える道徳の時間が必要であると考える。

「29年解説」では、一つの主題を2単位時間にわたって指導し、道徳的価値の理解に基づいて人間としての生き方についての学習を充実させる方法、重点的な指導を行う内容を複数の教材による指導と関連させて進める方法などは効果的であると示されている。よって、道徳の時間を2単位時間扱いにし、学習プログラムの最初と最後に位置付ける。

また、教科等における基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を〔情報の収集〕における「既習の知識や技能、体験を通した気付きや情報」と捉えれば、教科等が情報に成り得ると考える。それらの情報を〔整理・分析〕することで、自己の見方や考え方の高まりを自覚することができるを考える。よって、教科等で〔情報の収集〕及び〔整理・分析〕を行うこととする。

以上のことを踏まえ、本学習プログラムにおける道徳の時間と教科等の設定を表4に整理する。

表4 「課題発見・解決学習」の過程における道徳の時間と教科等の設定

過程	設定した時間・教科等
課題の設定	道徳の時間
情報の収集	教科等
整理・分析	
まとめ・創造・表現	道徳の時間
振り返り	

イ 追究過程を記録するテーマノート

永田繁雄（2016）は、学習テーマが授業の最初の段階で意識されることで学習過程全体が子供の思考の流れに沿った追究過程になると述べている。

西野真由美（2016）は、主体的に取り組む工夫として、導入でテーマへの問い合わせを共有し、どこまで追究できたかを振り返る活動で、新たな疑問や課題を発見し、次の学びに繋ぐことができると述べている。

「29年解説」では、書く活動は、生徒が自ら考えを深めたり整理したりする機会として重要な役割をもち、一冊に綴じられたノートなどを活用することで生徒の学習を継続的に深め、成長の記録としての活用や評価に生かすこともできると示されている。

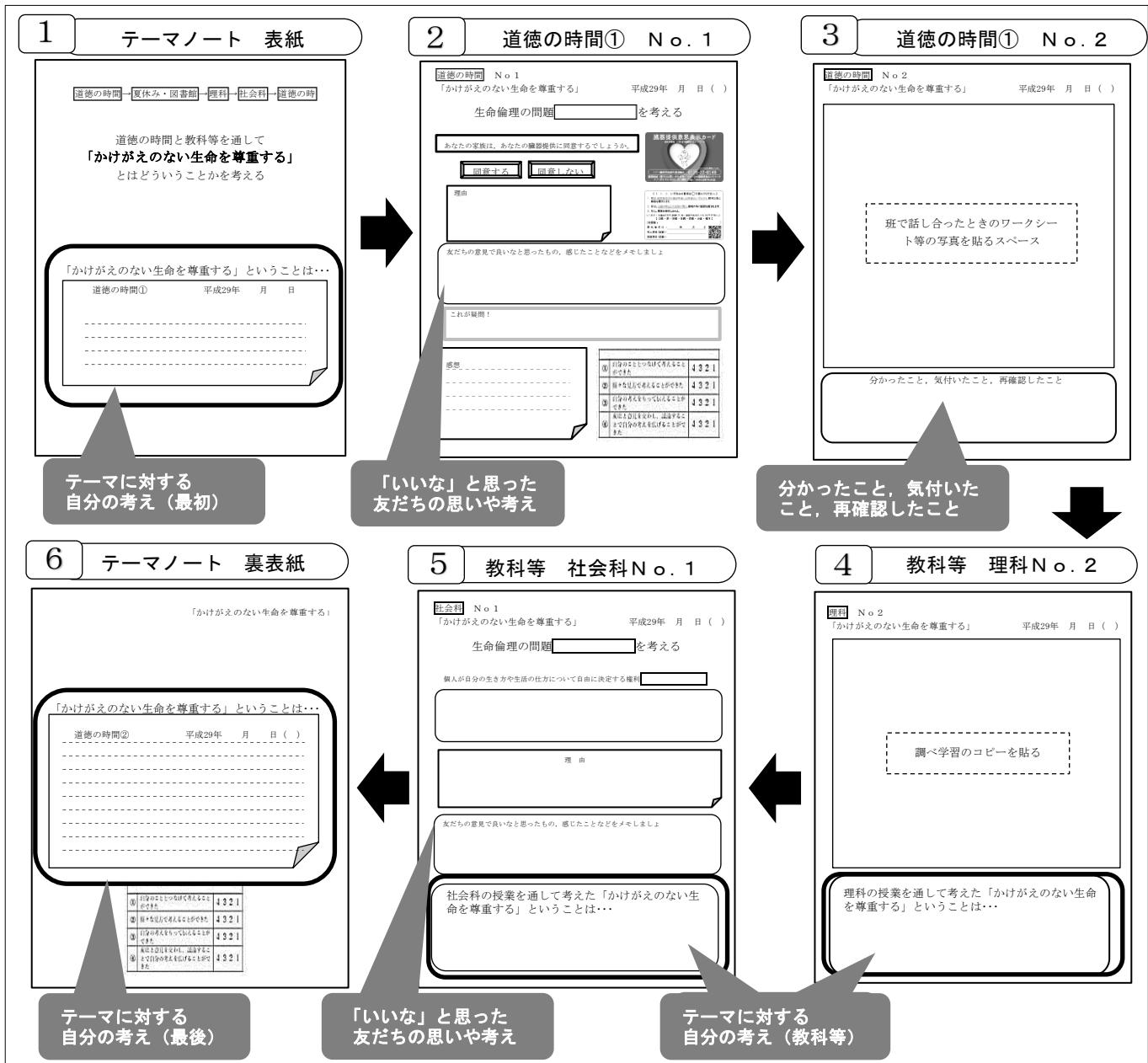


図2 追究過程を記録するテーマノート 一部抜粋

沼田義博（2016）は、価値の新たな気付きや再確認に迫るためには、友だちの意見、黒板の言葉、自分の思いの三者を融合したり整理したりする道德ノートの活用が有効であると述べている。また、具体的な記述内容は、①本時で扱う内容項目の価値に対する、現段階の自分の思いや考え、②友だちの思いや考えで「いいな」と思ったこと、③分かったこと、気付いたこと、再確認したことと示している。

これらの考えを基に、本研究では沼田が示している①から③の内容、黒板の板書やグループ活動で使用したシートなどを記録できるように工夫し、道德の時間と教科等で使用するワークシート等を一冊のノートにまとめ、設定した学習テーマの追究過程を

記録するテーマノートを作成する。その具体を一部抜粋し、図2に示す。

これらを基に本研究の構想図を次頁図3に示す。

III 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

追究していく学習テーマを設定し、「課題発見・解決学習」の過程の中に道德の時間と教科等を位置付けた複数主題複数時間の学習プログラムに取り組めば、生徒が現代的な課題を主体的に追究していく学習になるであろう。

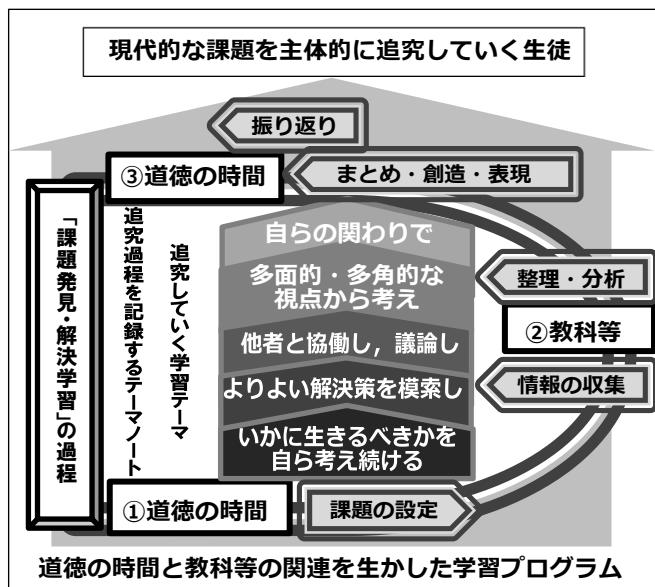


図3 研究構想図

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表5に示す。

表5 検証の視点と方法

現代的な課題を主体的に追究することができたか。	・事前アンケート ・中間アンケート ・事後アンケート ・発言、行動観察 ・テーマノート
道徳の時間と教科等の関連を生かした学習プログラムは有効であったか。	
追究過程を記録するテーマノートは有効であったか。	

IV 研究授業①について

現代的な課題を主体的に追究していく学習として、第3学年において「科学技術の発展に伴う生命倫理の問題」を扱った学習プログラムによる研究授業①を実践し、有効性を検証する。

【研究授業①】

- 期 間 平成29年7月14日～9月27日
- 対 象 所属校第3学年A組(16人)
- 内 容 次頁表6に概要を示す。

V 研究授業①の分析と考察

1 現代的な課題を主体的に追究することができたか

現代的な課題を主体的に追究することができたかに関する事前・事後アンケートを図4に示す。

全ての項目において肯定的な回答は増加しているが、t検定の結果に有意差は見られなかった。



図4 現代的な課題を主体的に追究することができたかに関する事前・事後アンケート

質問項目1では、全員が肯定的な回答であり、常に自分だったらどうするかという視点で考えたことで自分との関わりを意識できたと考える。

質問項目2では、肯定的な回答をした生徒は15人で、「とても思う」と回答した生徒が10人から14人に増加している。生徒Aは否定的な回答をしているが、学習テーマについての最終的な考え方について、

「人の命は、自分自身の気持ちで扱えるが、周りの人たちからするとその人の命というのは大切なもののなのだと思う。だから、自分では一つの命かもしれないが、他人からしたら、それは大切な命であると思う。」と記述しており、自分から他者へと視点が移っていることから、立場を変えて多面的・多角的に考えることはできたと考える。

質問項目3では、全員が肯定的な回答となっている。これは、道徳の時間だけでなく、教科等の学習において班で議論する活動の工夫を行ったことで、生徒が他者と議論し、考えを深めることができたと捉えたと考える。具体的には、道徳の時間では臓器移植を考える際、生徒に様々な立場を想定して議論させたり、理科の学習では、科学技術の発展に対する問題点について意見を交わさせたり、社会科の学習では、尊厳死について法の在り方と人の思いの両面から議論させたりした。その結果、学習プログラム最後の道徳の時間では、「かけがえのない生命を

表6 「科学技術の発展に伴う生命倫理の問題」を主体的に追究する学習プログラムの概要

時		主な学習活動	ねらい	
課題の設定 情報の収集・整理・分析 まとめ・創造・表現・振り返り	第1時 道徳の時間 主題名 「かけがえのない生命を尊重する」① 内容項目 D 生命の尊さ (C 家族愛) 教材名 「ドナーカード」 出典 あかつき（廣済堂）	<ul style="list-style-type: none"> 学習テーマについて現段階の考えをもつた上で、「ずれ」や「隔たり」を感じる。 「臓器移植」について、多面的・多角的に考え、他者と議論することで自分の考えを広げる。 新たな疑問を見付ける。 	生命に関する科学技術の進歩の中で、かけがえのない生命を尊重するということの意味を多面的・多角的に理解し、自他の命を大切にしているとする態度を育てる。	現代的な課題 脳死、臓器移植
	夏季休業中の課題 テーマノートの活用	<ul style="list-style-type: none"> 「私たちの道徳」P96～103を読んで感じたことを書く。 「臓器移植」について家人と話し合って感じたことを書く。 「生命倫理の問題」に関わるニュース等を調べて書く。 		
	第2時 理科の授業 単元名 「2 生命の連続性」 『2 遺伝の規則性と遺伝子』 内容項目 D 生命の尊さ	<ul style="list-style-type: none"> 生命の連続性の学習において「かけがえのない生命」への理解を深めた上で、遺伝子やDNAに関する研究成果の活用について調べ学習を行う。 調べ学習の四つの課題のうち一つを選び、各班で調べ、問題点を挙げ、「生命」とは何かを考えることを通して、「かけがえのない生命を尊重する」ということについて考える。 整理した情報を、多面的・多角的視点で考えて分析、比較し、レポートを作成し、発表する。 	遺伝現象について理解させるとともに、生命の連続性についての認識を深める生物の成長や生殖を細胞レベルで捉え、親から子に形質が伝わるしくみの学習から生命の連続性が保たれるこについて理解し、生命を尊重する態度を育てる。	現代的な課題 遺伝子やDNAに関する研究、再生医学、遺伝子組換え技術
	第3時 理科の授業 単元名 「2 生命の連続性」 『2 遺伝の規則性と遺伝子』 内容項目 D 生命の尊さ	<ul style="list-style-type: none"> 「自己決定権」について学んだのち、道徳の授業で考えた「臓器移植」を想起し、「尊厳死」に関わる「自己決定権」について他者と議論することで自分の考えを広げ、「かけがえのない生命を尊重する」について考え、発表する。 テーマノートに記録する。 		調べ学習の課題 クローン技術、遺伝子調査、再生医療、遺伝子組換え技術
	第4時 社会科の授業 単元名 「2 個人の尊重と日本国憲法」 『2 人権と日本国憲法』 内容項目 C 公正、公平、社会正義	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館に設置された「生命」コーナーで紹介される書籍や記事など、興味のあるものを読み、考えたこと感じたことをテーマノートに記録する。 		社会の変化とともに人権の考え方が変化することについて、具体的な事例を通して気付かせるとともに、社会の変化に伴って生じた人権上の新しい課題にはどのようなものがあり、それらの解決がなぜ重要なのかを理解させる。
	学校図書館の活用 学習プログラムに関連する書籍、新聞・雑誌記事等展示		現代的な課題 インフォームド・コンセント、臓器移植、尊厳死、安楽死、遺伝子技術、クローン技術、遺伝子診断	現代的な課題 遺伝子やDNAに関する研究、再生医学、遺伝子組換え技術、インフォームド・コンセント、臓器移植、尊厳死、安楽死、遺伝子技術、クローン技術、遺伝子診断
	第5時 道徳の時間 主題名 「かけがえのない生命を尊重する」② 内容項目 D 生命の尊さ (C 家族愛) C 公正、公平、社会正義	<ul style="list-style-type: none"> 理科、社会科の学習及び夏季休業中の課題や学校図書館の活用で得た考えをまとめる活動を行い、課題の解決策を創造し、「かけがえのない生命を尊重する」について自分の考えをもつ。 他者に伝える活動を入れ、他者から多様な評価を得られるようにする。 追究過程を振り返り、学習テーマに対する自己の見方や考え方の高まりを自覚するとともに、新たな課題意識をもつ。 		

尊重する」ということについて、理科や社会科の学習を想起しながら、科学技術の発展に伴って命の在り方が変わってきたことに対して、多面的・多角的な視点をもって活発な議論が行われていた。

質問項目4では、事前アンケートで「あまり思わない」と回答した生徒は2人いた。そのうちの生徒Bは生徒の中でテーマノートの記録内容が一番多く、事後アンケートで「とても思う」に変容した。生徒B自身も以前から生への関心が高く、授業以外での活動にも積極的に取り組んでいたことから、問題解決についてしっかり考えることができたと自覚するに至ったと考える。一方、生徒Aは変容が見られず、事後アンケートの記述ではその理由を「矛盾している。」「内容が難しかった。」と回答した。これは答えのない現代的な課題について解決策を模

索する追究の過程に課題があると考える。

質問項目5では、肯定的な回答をした生徒は6人から8人に増加している。一方、否定的な回答をした生徒8人は「テーマが難しかった。」「今の自分の生活では関わりが薄い。」等の理由を挙げており、考えを広げさせることはできなかった。

これらのことから、現代的な課題を主体的に追究する活動はできたが、問題を見いだし、解決策を模索する追究の過程に課題があることが分かった。

2 道徳の時間と教科等の関連を生かした学習プログラムは有効であったか

(1) 「課題発見・解決学習」の過程は有効であったか

まず、[課題の設定]に当たる道徳の時間において

て、問題となっている課題を見いだし、問題解決をしていくうという意欲がもてたかについて検証する。問題解決をしていくうという意欲がもてたかに関する事前・中間アンケート（中間アンケートは〔課題の設定〕に当たる道徳の時間の後に実施）の結果を図5に示す。

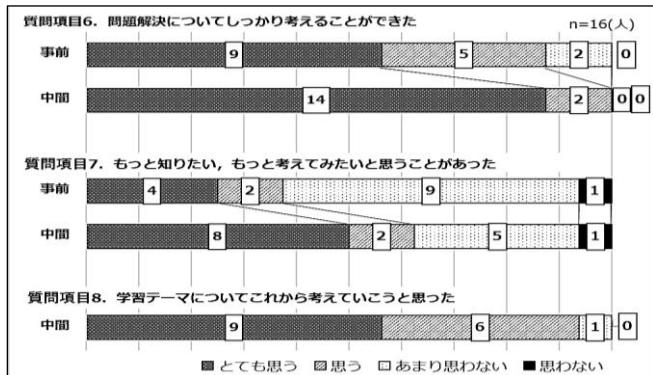


図5 問題解決をしていくうという意欲がもてたかに関する事前・中間アンケート

質問項目6では、全員が肯定的な回答となった。これは、科学技術の発展に伴い、選択を迫られる際の判断理由を考えることで、問題を具体的に捉えることができたのだと考える。

質問項目7では、肯定的な回答をした生徒は6人から10人に増加した。否定的な回答をした生徒は9人から6人に減少したが、約半数に当たる6人が事前アンケートの否定的な回答から変容していない。

質問項目8では、肯定的な回答をした生徒は15人となり、大半の生徒が問題解決の意欲をもったことが分かる。質問項目7の結果と併せて分析すると、課題は見いだせなかったのに学習テーマについて考えていこうと思ったことになる。これは見いだす課題と学習テーマの関連に課題があると考える。

これらのことから、〔課題の設定〕に当たる道徳の時間では、学習テーマを追究していくための教科等との関連に再考が必要であることが分かった。

次に、〔情報の収集〕と〔整理・分析〕においては、教科等の関連によって考えを深めることができたかについて検証する。教科等の関連に関する事前・事後アンケートの結果を図6に示す。

質問項目9では、事後アンケートで肯定的な回答をした生徒は6人から12人に増加した。

否定的な回答をした生徒4人は、聞き取り調査において「生命の尊さを考えるのに社会科の関係は分かつたけれど、理科は分からなかった。」と理由を述べた。理科担当教諭も理科の学習と道徳のねらい

のずれを課題に挙げている。

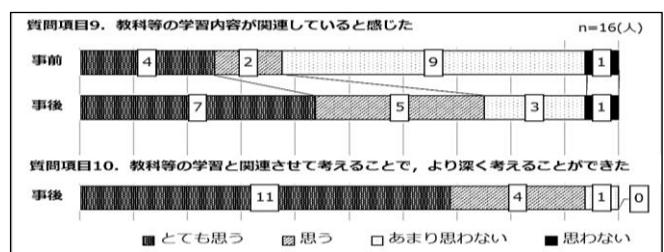


図6 教科等の関連に関する事前・事後アンケート

質問項目10では肯定的な回答をした生徒は15人となり、教科等の関連によって深く考えることができたと捉えていることが分かった。しかし、否定的な回答をした生徒Cは聞き取り調査において、理科との関連を感じなかつたと述べた。この生徒は質問項目9においても否定的な回答をしており、これは、生徒Cが〔課題の設定〕に当たる道徳の時間において、次の理科の学習内容に繋がる課題を見いだせなかつたことに起因すると考える。このことから、見いださせる課題と教科等の関連が不十分であり、追究の過程に改善が必要であると考える。また、教科等担当教諭が学習内容と道徳との関連をより意識し、道徳的視点をもって指導し易いよう共通理解を図るために、連携内容の改善も重要と考える。

最後に、〔まとめ・創造・表現〕〔振り返り〕に当たる道徳の時間が新たな課題解決の挑戦へつながる活動になったかを、生徒Dの学習テーマに対する記述の変容から検証する。生徒Dの記述を表7に示す。

表7 生徒Dの学習テーマに対する記述の変容

学習前	どういう命であっても大切にしていき、今自分たちにできることをすること。
学習後	今回の学習で、命の大切さ、そして“生きる”ということについて知ることができました。そのことについて私は、生きるということは幸せであると感じる人もいるし、生きることが嫌だと思う人もいると思います。ですが、幸せであれ不幸であれ、同じ命だから、その命を尊重するということはとても難しいと思いました。生きたくても生きることができない人もいるし、生きられるのに死ぬ人もいる。今自分が考えていることはとても難しいことなのだと感じました。今、科学が発達しています。それは生きたくても生きることのできない人のためです。だから、生きられるのに死んでしまう人のために私たちが出来ることはかないのかな、と考えました。これからは、今まで以上に「かけがえのない命を尊重する」ということに向き合って生きていきたいです。

※下線について 思い 教科等 具体的な行動

生徒Dは、質問項目7「もっと知りたい、もっと考えてみたいと思うことがあった」の中間アンケートでは「あまり思わない」と回答したが、事後アンケートでは「とても思う」に変容した生徒である。

生徒Dの学習前の記述では、学習テーマに対する思いや、どう生きるべきかについての考えも漠然としている。その後、理科では科学技術の発展を肯定的に捉えた思いを、社会科では生命の有限性と意思の尊重について書いている。学習後の記述は、生命を尊重することの難しさ、科学技術が発展していく社会における生き方について具体的な思いを抱き、自分なりに学習テーマに対する解決策を創造するとともに、新たな課題解決の挑戦へと繋がっていることが分かる。

他の生徒も生徒Dと同様に、学習後の記述には、教科等と関連付けて考えることで道徳的価値の理解が深まっていることが分かった。

以上の結果を踏まえると、「課題発見・解決学習」の過程に道徳の時間と教科等を位置付けることで、生徒の道徳的価値に対する考えが深まるることは分かった。しかし、見いだせる課題と学習テーマの関連に課題があり、道徳の時間と教科等の関連を生かすためには【課題の設定】と【整理・分析】の過程に改善の必要があると考える。

(2) 追究過程を記録するテーマノートは有効であったか

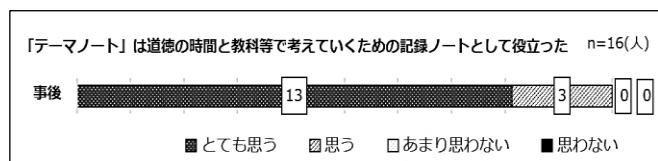


図7 テーマノートに関する事後アンケート

図7に示したテーマノートに関する事後アンケートでは、生徒全員が肯定的な回答であり、事後アンケートには「何度もテーマの問い合わせて考えることができた。」「自分の気持ちの変化がよく分かった。」「自分がどういうことを思っていたのかを振り返ることができた。」等の記述があった。

「自分がどういうことを思っていたのかを振り返ることができた。」と回答した生徒Eのテーマノートの記述から、学習テーマに対する考え方の変容を表8に示す。学習前には「自分の命は大切にしないといけない。」という考えであったが、夏季休業中の課題や学校図書館の活用で「生きる」ということについて考えが広がっていることが分かる。理科では

科学技術の発展が延命に繋がることを理解し、社会科では医療よりも「人の気持ち」の大切さに触れている。学習後には、自分の命は家族や友人によって支えられているという考えに広がっている。

生徒Eの記述から、テーマノートに記録することで自分の考えを振り返ることができ、学習テーマについて多面的・多角的に追究し、道徳的価値の理解が深まっていることが分かる。

表8 生徒Eの学習テーマに対する考え方の変容

学習前	この世界に生まれたのなら、自分の命は大切にしないといけないと思います。
夏季休業中の課題	<p>【私たちの道徳】 私の命は母と父から受け継いだ大切な命で、受け継いだからには今ある私の人生をしっかり楽しまなければいけないという義務があるということが分かりました。身近な人の死が来た時、あの時の私は受け入れられませんでした。でも今は違います。祖父の命を、人生を、私が受け継いでいきたいです。 【ニュース等】 「12年間植物状態の患者と脳スキャンを使って会話することに成功（カナダ研究）」 私はこの研究がもっと進んでいけば、いつまでもっとスムーズに植物状態の人と会話ができる気がします。でも私は、人間の在り様として、どうかと思います。その人の家族やその人も精神的に苦しくなるのではないかでしょうか。植物状態の人は「うん。」とかの簡単な返事しかできないということに、苦しむと私は思います。</p>
理科	理科の中で生命を尊重するというのは、できるだけ長く生きていけるように科学的なことを続けるということだと思います。でも私は、科学的に生きられる時間を長くするのは嬉しいよりも苦しい方が大きいかなと思いました。
社会科	社会科でいう「死」は、死ぬ人の意見を尊重することではないか、と私は思いました。尊厳死について、それぞれ意見は違うけど、私は死を迎える人がどうしたいのかを考えるのが一番だと思うし、他人が考えるのではなく自分が考えていく問題だと思いました。死んでしまう人もその家族も、気持ちを尊重していきたいと思いました。医療よりも大事なのは人の気持ちなのではないでしょうか。
学習後	私の命は私のものだけ、家族や友だちに支えられていくことを忘れないことが、とても大切なことだと思いました。生きていることは私一人だけのものではないし、死というのも、私だけのものではありません。もし私が死んでしまったら、周りにいる家族や友だちは、どんなことを思うのか、そんなことも考えながら生活していきたいし、生きることってどういうことなのか見付けていきたいです。

また、テーマノートに教科の学習のワークシートや黒板の板書の写真等、様々な情報を記録しながら学習テーマについて考えていくことで、その時に感じた自分の思いを振り返ることができたと考える。

教科担当教諭も成果として「教科を超えて学習内容が一つのグループであることを生徒が感じることができる。」を挙げたが、「教科ごとにノートが残らないので評価しづらい。」という課題を挙げた。生徒及び教科担当教諭の意見等から、テーマノートは追究過程を振り返るための記録手段として有効であることは分かったが、教科のワークシートを綴じることに関しては改善の必要があると考える。

VI 研究授業①の課題と研究授業②への改善点

以上の検証結果を踏まえ、研究授業①の課題と研究授業②への改善点を表9に示す。

表9 研究授業①の課題と研究授業②への改善点

課題	改善点	改善の具体
教科等の学習内容が関連していると感じられない。 見いだした課題の解決策が教科等の学習で模索できるようになると感じられる。	●解決策を模索する追究過程 自分のことと繋げやすい内容を出発点に、よりよい社会の在り方を考えることで視点を広げ、そのような社会にするために今自分が何ができるのかを考えさせる。のために、道徳の時間で現代的な課題の問題点を見いだし、教科等で問題点の解決策を模索していく追究過程になるようとする。 ●「課題発見・解決学習」の過程における道徳の時間と教科等の位置付け 〔課題の設定〕 現代的な課題の問題点を見いだし、その解決策を教科等から〔情報の収集〕をさせる。 〔情報の収集〕 道徳の時間を含め、道徳内容項目の視点を増やし、より多面的・多角的に追究させる。 〔整理・分析〕 教科等で得た情報を整理・分析し、学習テーマについて多面的・多角的に捉えさせ、他者と協働し、議論させる。	教科等のワークシートを継続して評価できない。 付箋による情報収集を行う。

●テーマノート

- 〔課題の設定〕で見いだした課題に対する解決策を教科等から探し、そこで得た情報や感じしたこと等をテーマノートの付箋紙に記入させることで〔情報の収集〕とする。
- 学習テーマの最初と最後及び問題点に対する解決策を、一枚のワークシートに記入させ、学習前と学習後の考え方を比較させる。
- 学習前と学習後の記述欄の間に、教科等で収集した情報のまとめを記入させることで、〔整理・分析〕の記録とする。

改善した「課題発見・解決学習」の過程における道徳の時間と教科等の設定を表10に示し、改善したテーマノートの具体を図8に示す。これらを基に改善した研究構想図を次頁図9に示す。

表10 改善した「課題発見・解決学習」の過程における道徳の時間と教科等の設定

過程	設定した時間・教科等
課題の設定	道徳の時間
情報の収集	道徳の時間・教科等
整理・分析	
まとめ・創造・表現	道徳の時間
振り返り	

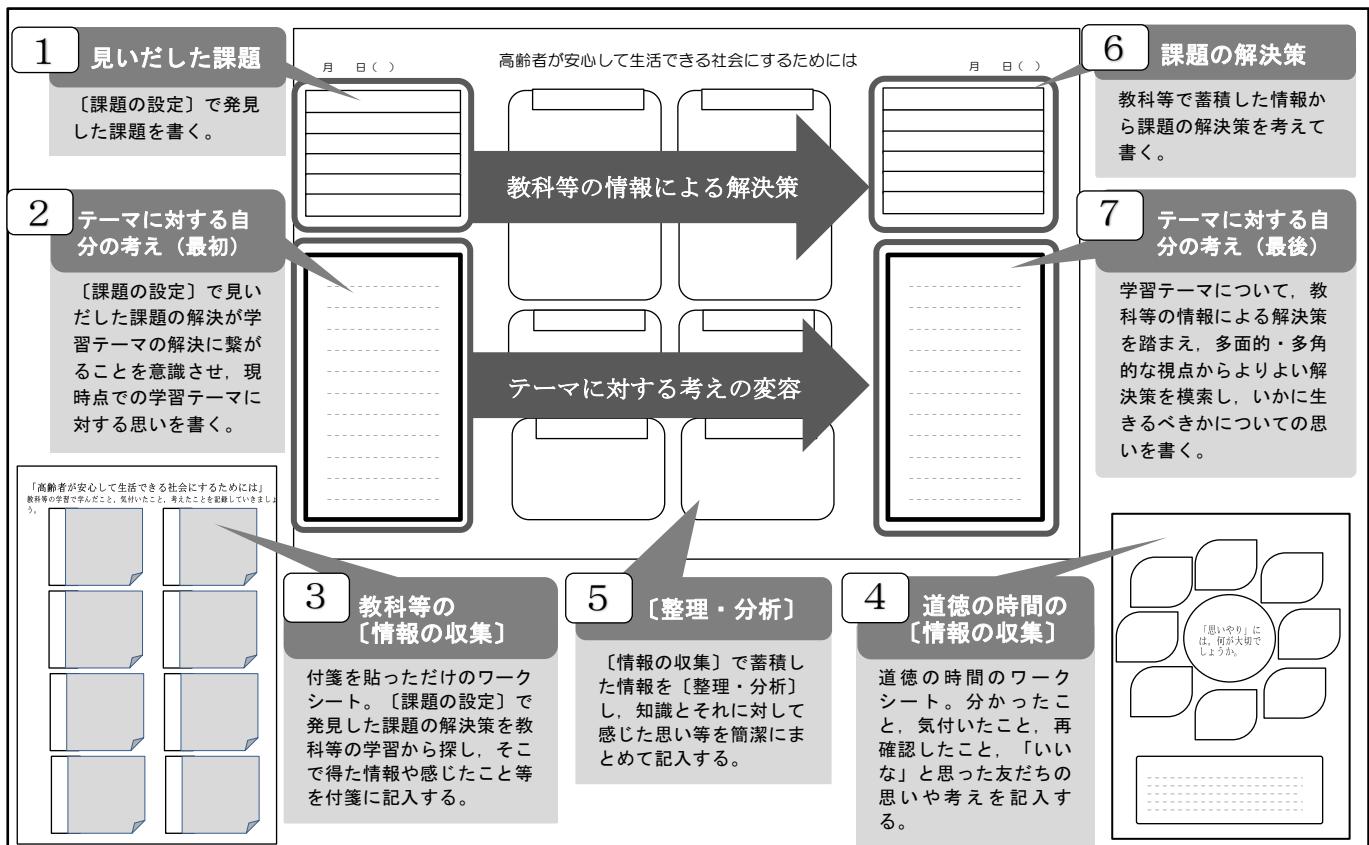


図8 改善した追究過程を記録するテーマノート 一部抜粋

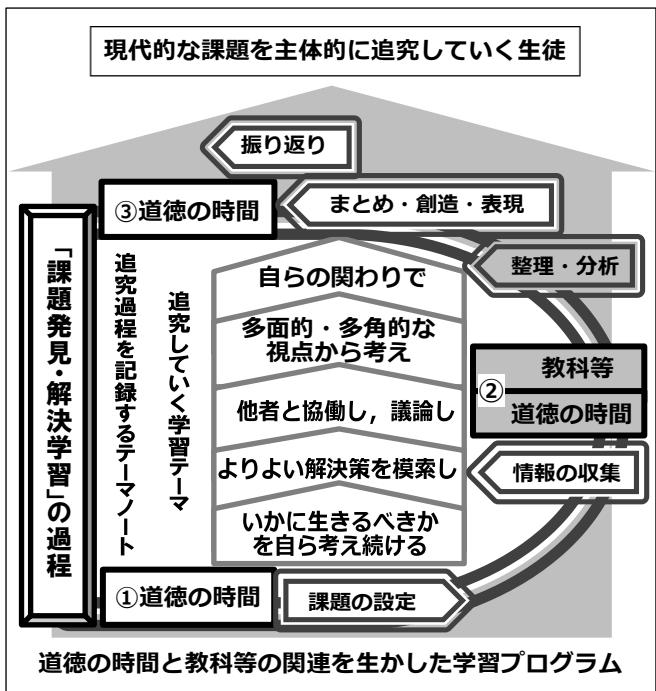


図9 改善した研究構想図

VII 研究授業②について

第2学年において「高齢社会の問題」について考える学習プログラムによる研究授業②を実践し、有効性を検証する。

【研究授業②】

- 期 間 平成29年11月10日～12月5日
- 対 象 所属校第2学年A組（9人）
- 内 容 次頁表11に概要を示す。

● 道徳の時間と教科等の関連

本校第2学年では毎年11月に技術・家庭科（家庭分野）において高齢者疑似体験学習を実施している。この学習時期に学習プログラムを設定し、関連を生かせる教科等を関連付け、「高齢社会の問題」を扱う。4月に社会科（地理的分野）で学習した福富町の人口分布図等から高齢社会を想起させ、福富町の未来を想像し、問題意識を持たせる。また、「高齢社会の問題」については、第3学年の社会科（公民的分野）の福祉に関する学習に繋げることができることから、指導の際は福祉教育の視点をもって指導することとする。

● 「高齢社会の問題」と道徳の内容項目の関連

原田正樹(2017)は、福祉の教育の実践で育みたいのは、相手を知り、相手と自分との関わりを考え、どうしたら共に生きていく事ができるかを考えていく過程であり、困っている人を助けるという貧困的理解ではなく、相手への「尊厳」をもつて、その人ができることを知って共感し、生活の

中で何ができるのかを考えることが大切であると述べている。このことから、「B 相互理解・寛容」「B 思いやり・感謝」「C 社会参画・公共の精神」等の関連が考えられる。

● 学習テーマの設定

生徒の居住地域も少子高齢化が進み、生徒が地域の高齢者と関わる機会も多い。どの家庭も祖父母が同居もしくは近所に居住し、家族としての関わりは強い。このことから、家族の中の高齢者について考える「C 家族愛」を出発点に、高齢社会の問題を考える「C 社会参画・公共の精神」へと広げるため、学習テーマを「誰もが安心して生活できる社会にするためには」と設定する。

VIII 研究授業②の結果分析と考察

1 現代的な課題を主体的に追究することができたか

現代的な課題を主体的に追究することができたかに関する事前・事後アンケートを図10に示す。事後アンケートは全項目で肯定的な回答となった。

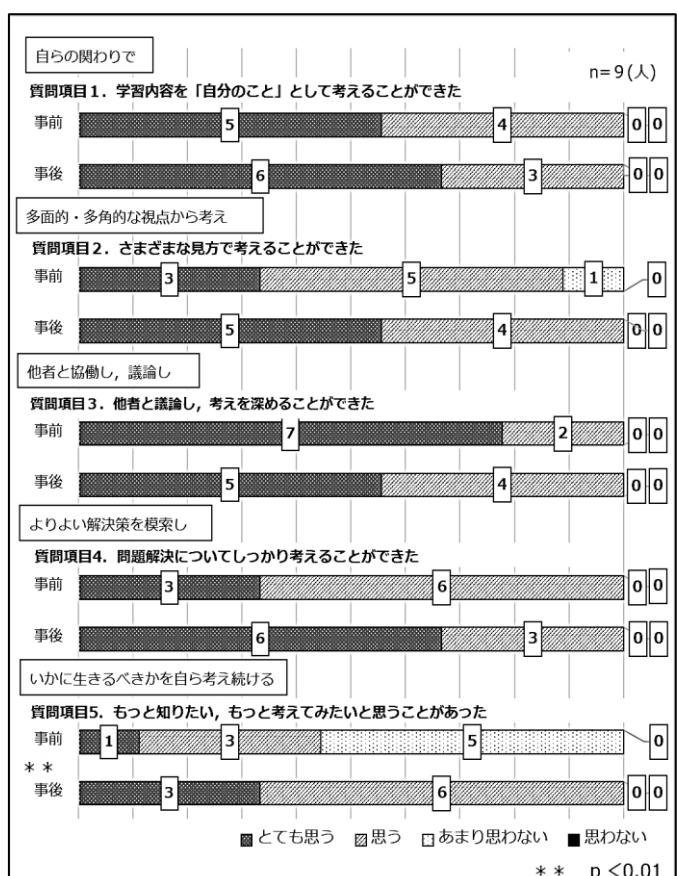


図10 現代的な課題を主体的に追究することができたかに関する事前・事後アンケート

表11 「高齢社会の問題」について考える学習プログラムの概要

	時	主な学習活動	ねらい
課題の設定	第1時 道徳の時間 主題名 「家族の一員として」 内容項目 C 家族愛 (C 社会参画, 公共の精神) 教材名 「一冊のノート」 出典 私たちの道徳 中学校 教材名 「高齢者に元気を」 出典 第30回全国中学生人権作文コンテスト青森県大会佳作	<ul style="list-style-type: none"> 教材を読み、多面的・多角的に考え、他者と議論することで自分の考えを広げる。 高齢社会への問題意識をもたせる。 学習テーマについて現段階の考え方をもち、「高齢者が安心して生活できる社会にするために」必要なことは何かを考えいくことを理解させ、〔課題の設定〕とする。 	かけがえのない家族の存在に気付き、その一員として関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。また、地域社会における高齢者の想いや抱えている問題を考えることで「高齢者福祉」へと視点を広げ、高齢者が安心した生活を送ることができる社会の実現を目指そうとする意欲を育む。
	第2時 技術・家庭科（家庭分野） 題材名 「これから私の私と家族」 内容項目 C 家族愛 (高齢者疑似体験事前学習)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者へのイメージを挙げた上で、実際、高齢者はどのような思いでいるのかを知るために、高齢者疑似体験学習をすることを知る。 	高齢者がどのような支えを必要としているのかを考えようとする態度を養う。
	第3時 外国語科 単元名 「My Dream」 内容項目 C 勤労	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞を理解する学習の中で、将来の夢に関する主人公のスピーチ原稿について、詳細を正確に読み取り、内容を整理する。 	職場体験の経験や、家庭科の学習等と関連させ、介護福祉士の仕事や介護ロボット制作の仕事があることなどを理解する。
	第4時 道徳の時間 主題名 「思いやりとは」 内容項目 B 思いやり、感謝 教材名 「おばあちゃんの小さな秘密」 出典 NHK道徳ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> 菅井君と川地さん、そして柳さんの立場になって考え、思いやりの心で接することで通い合う心のあたたかさを捉える。 	思いやりの大切さだけでなく、自他共にかけがえのない存在であることを自覚させ、互いに支え合うことで人間として生きることに喜びを見出し、思いやりと感謝の心と態度を育む。
	第5時 技術・家庭科（家庭分野） 内容 『高齢者疑似体験学習』 内容項目 B 相互理解、寛容	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者疑似体験セットを付けることで、手足の曲げ伸ばしのしにくさや、白内障など、高齢者の身体の特徴を体感する。 	高齢者の視力や筋力の低下など、中学生とは異なる身体の特徴が分かり、それらを踏まえて関わる必要があることを理解する。
	第6時 技術・家庭科（技術分野） 題材名 「計測・制御」 内容項目 C 社会参画、公共の精神	<ul style="list-style-type: none"> 生活サポートロボットのモデル開発に必要な機能をもつ計測・制御システムの設計・製作などの課題解決に取り組む。 	外国語科と家庭科の学習等と関連させ、生活機能をサポートするロボットが開発されていることを理解する。
	第7時 美術科 題材名 「ユニバーサルデザイン」 内容項目 C 社会参画、公共の精神	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインは生活や社会の中の美術であることを知り、身の回りのユニバーサルデザインを考える。 	豊かな情操を培うと同時に、ユニバーサルデザインは全ての人が使いやすいよう意図されていることを理解する。
	第8時 音楽科 題材名 「アウトリーチ・音楽療法」 内容項目 C 社会参画、公共の精神	<ul style="list-style-type: none"> アウトリーチ（演奏者が出向いて音楽を楽しんでもらう活動）や音楽療法など、音楽を生かす仕事や活動から音楽のもつ力について話し合う。 	音楽の力について思いや考えをもち、どのように社会と関わっているかを知った上で、音楽を通して高齢の方と関わるアウトリーチや音楽療法について理解する。
	第9時 技術・家庭科（家庭分野） 題材名 「これから私の私と家族」 内容項目 B 相互理解、寛容 (高齢者疑似体験学習振り返り)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者疑似体験学習を振り返り、高齢者の生活課題に気付き、気持ちや立場を思いやる大切さを考える。（「わたしたちの住環境」で想起） 	家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
	学校図書館の活用 学習プログラムに関連する書籍や新聞記事等の展示、教室への設置。	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館や教室に設置した「高齢者福祉」コーナーで紹介される書籍や記事などを読み、考えたこと感じたことをテーマノートに記録する。 	
整理・分析	第10時 道徳の時間 第11時 道徳の時間 主題名 「高齢者が安心して生活できる社会にするためには」 教材名 「ぼくとおばあちゃんのあいさつ言葉」 出典 平成20年度全国中学生人権作文コンテスト熊本県大会最優秀賞 内容項目 C 社会参画、公共の精神 (B 思いやり、感謝) (B 相互理解、寛容) (C 家族愛) (C 勤労)	<ul style="list-style-type: none"> 教科等で得た多面的な情報を〔整理・分析〕し、〔課題の設定〕で挙げた高齢者に関わる課題の解決策を考える。 教材を読み、心に残ったところ、共感するところ、疑問や反論など、様々な感想を〔整理・分析〕して議論し、高齢社会に対する具体的な問題点、疑問点を更に意識する。 追究過程を振り返り、学習テーマに対する自己の見方や考え方の高まりを自覚するとともに、新たな課題意識をもつ。 	高齢社会の課題を自分自身の生活と関連付け、高齢者が安心して過ごせる社会にするために何をどうすればよいか考えることで、よりよい社会の実現のために自分たちも積極的に関わっていこうとする意欲と態度を養う。
まとめ・表現・創			
振り返り			

質問項目1では、全員が肯定的な回答となっている。これは「C 家族愛」を扱い、家族の一員としての高齢者との関わりを出発点として、地域・社会の高齢者へと視点を広げたことから、自分との関わりで考えることができたのだと考える。

質問項目2では、「とても思う」と回答した生徒は3人から5人に増加した。生徒の最終的な学習テーマへの考え方の記述からも、教科等の学習や高齢者や高齢者に関わる人など立場を変えて考えることで多面的・多角的な見方ができたことが分かった。

質問項目3では、「とても思う」と回答した生徒が7人から5人に減少している。これは生徒が「議論」を対立する意見の話合いと捉えており、他者と自分の意見の整理・分析が中心となった本学習では

「議論」と捉えなかつたのではないかと考える。生徒の発言、行動観察から分析するに、教科等の学習で得た解決策を出し合って議論する際、生徒は解決策に関わる問題点や立場を変えた見方等を基に様々な意見を出し合い、整理・分析していたことから、他者と協働し、議論することができたと考える。

質問項目4では、「とても思う」と回答した生徒は3人から6人へと増加した。これは、高齢社会の問題点を見いだし、その解決策を教科等の学習から模索する過程が有効であったと考える。

質問項目5は、t検定の結果においても有意差が見られた。生徒のアンケート記述には「互いがどのようにしたらよりよく共存できるのか。」「高齢者は私達をどう思っているのか。」「高齢者についてもっと知りたい。」「ロボットはどう使われるのか。」「介護について。」等が挙がり、教科等の関連によって興味が広がったことが分かる。

最終的な学習テーマに対する記述に、自分自身のこれから生き方について書いた生徒は9人中8人であった。授業内では学習テーマについて記述できなかった生徒Fも、事後アンケートの感想には「今自分が想像している将来よりももっと先のことを考えなければいけないと思った。」と記述し、これからの生き方に課題意識を抱いたことが分かる。

これらのことから、「高齢社会の問題」について生徒が自らの関わりで多面的・多角的な視点から考え、他者と協働し、議論しながら、よりよい解決策を模索し、いかに生きるべきかを自ら考え続けることができたと考える。

2 道徳の時間と教科等の関連を生かした学習プログラムは有効であったか

(1) 「課題発見・解決学習」の過程は有効であったか

まず、[課題の設定]に当たる道徳の時間を検証する。問題解決をしていくうという意欲がもてたかに関する事前・中間アンケート（[課題の設定]に当たる道徳の時間後に実施）の結果を図11に示す。

全ての質問項目が肯定的な回答となり、t検定の結果では、質問項目7に有意差が見られた。

[課題の設定]に当たる道徳の時間では、高齢者が抱えていると思われる不安を想像し、高齢社会の問題点を見いだすことができた。その問題点の解決策を教科等から情報収集するという追究過程を明確にしたことから、問題解決への意欲をもつことができたと考える。

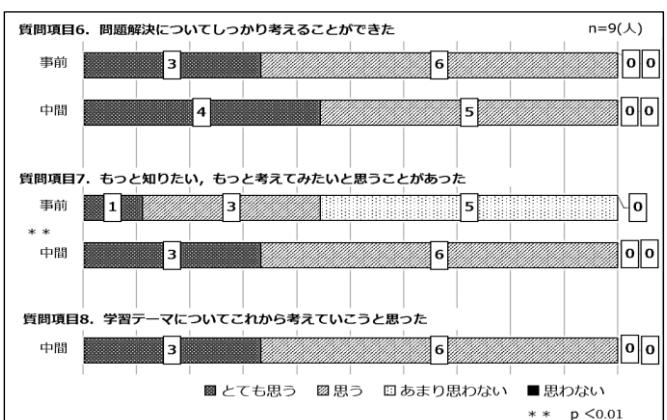


図11 問題解決をしていくうという意欲がもてたかに関する事前・中間アンケート

次に、[情報の収集]と[整理・分析]において、教科等の関連によって考えを深めることができたかについて検証する。教科等の関連に関する事前・事後アンケートを図12に示す。

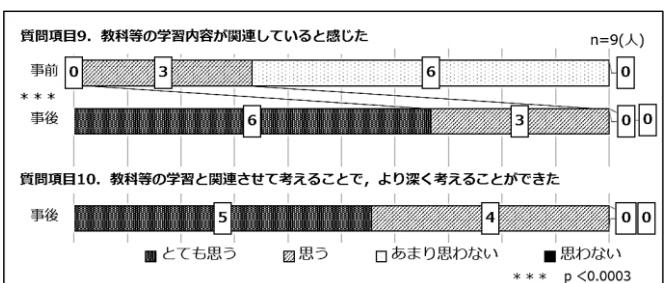


図12 教科等の関連に関する事前・事後アンケート

質問項目9では、t検定の結果において有意差が見られ、質問項目10においても全員が肯定的な回答となった。これは[課題の設定]で高齢社会の問題点を具体的に挙げ、その解決策として教科等の学習

から情報を収集し、整理・分析したことで、道徳の時間と教科等の関連を生かすことができたと考える。

また、生徒自身に関連する教科等を気付かせるためには、教科等担当教諭との連携が重要であった。研究授業②では、教科等担当教諭が意図をもって指導できるようにするための事前連携として、学習テーマ設定の理由、教科等のねらい、生徒の思考の予想、生徒に気付かせたい道徳的価値を一覧にし、共通理解を図った。関連した教科等担当教諭を行った事後調査での回答を以下に示す。

関連した教科等担当教諭の回答

- ・学習テーマがあることで、その学習テーマに教科がどう関われるかという視点で授業をすることができた。
- ・資料のある事前説明によって教科の学習内容も充実させることができた。
- ・あらかじめ学習のねらいが把握されており、教科としては無理なく負担なく学習活動を行うことができた。
- ・授業のねらいを知ることで適切な資料が用意できた。
- ・学習内容についてどう思うかを問うことで生徒は道徳的視点で個人思考でき、交流させることができた。

教科等担当教諭の回答から、学習テーマ設定の理由を明確にした上で連携によって授業のねらいが明確になり、教科等担当教諭が担当教科の特質を生かして授業を構成することができたことが分かる。

最後に、〔整理・分析〕〔まとめ・創造・表現〕〔振り返り〕に当たる道徳の時間が、道徳的価値への理解を深め、新たな課題解決への挑戦へつながる活動になったかを検証する。例として生徒Gの記述を表12に示す。

表12 生徒Gの学習テーマに対する記述の変容

学習前	<u>私たちには関係ないと、遠い話にするのではなく、身近なものとして一人一人が考えていかないといけない問題だなどと思った。私のおばあちゃんは私の隣の家に住んでいるので、話をしに行ったりしようと思った。高齢者との関わりも減ってきてしまっているので、たくさん関わりたい。</u>
学習後	<u>ロボットに頼れば、高齢者を支える人は楽になれるけれど、お互いに楽しく共存できるには、やはり人と人との関係を築くことが大事だと思った。だから私たちは高齢者に尊敬する気持ちを持ちながら、出会ったら進んで挨拶をしていくこうと思う。高齢者も私たちを気にかけられるような行動を取り、互いに互いを思いやれたら良いと思った。また、地域の行事に積極的に参加して交流し合える場を増やしていくと、高齢者だけでなく、その他の人とも町も明るくなっていると思う。</u>

※下線について 思い 教科等 具体的な行動

生徒Gの記述を見ると、学習前はプログラム最初の道徳の時間で「C 家族愛」を扱ったことで、家族の中の高齢者を意識し、学習テーマについて自分との関わりで考えていくうという意欲をもったことが分かる。学習後の記述では、教科等で学んだことから道徳的価値に関して感じたことや考えたことを統合させ、これから生き方の課題を捉え、実現していくうとする思いを抱いていることが分かる。他の生徒も生徒Gと同様に、学習後の記述には、教科等と関連付けて多面的・多角的に考え、よりよい社会の実現のために今の自分に何ができるのかについての考えを記述していた。

これらのことから、改善した「課題発見・解決学習」の過程により、道徳的価値の理解が深まり、新たな課題解決への挑戦につながる活動になったことが分かった。

(2) 追究過程を記録するテーマノートは有効であったか

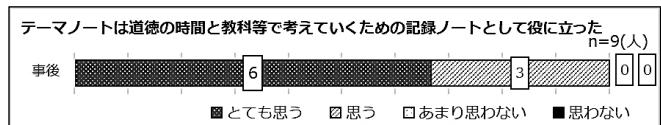


図13 テーマノートに関する事後アンケート

図13に示したテーマノートに関する事後アンケートでは、生徒全員が肯定的な回答をしている。事後アンケートの記述欄には「自分の思ったことを思い出すことが出来る。」「前回の授業と比べることが出来た。」との記述があった。「自分がどういうことを思っていたのかを振り返ることができた。」と回答した生徒Hがテーマノートに記述した追究過程の記録の一部を次頁表13に示す。

生徒Hは、〔課題の設定〕の学習前は行動のみを記述していたが、学習後には互いに思いやることの大切さが解決の糸口ではないかと気付いている。

〔情報の収集〕では、教科等から解決策と思うものを生徒Hが主体的に抽出し、それに対する自身の思いを付箋に記録していることが分かる。また、〔整理・分析〕においても、教科等の学習で得た情報を基に思考を整理していることが分かる。これらのことから、教科等のワークシートを綴じなくても〔情報の収集〕で行う学習内容は付箋によって記録でき、思考を整理することもできることが分かった。さらに、〔振り返り〕では、いかに生きるべきかの課題を捉え、福祉に関する考え方の基本となる「共に生きる」ことを理解し、高齢者が安心して生活で

きる社会を作ることは、みんなが安心して生活できる社会をみんなで作っていくことだという意識をもっている。他の生徒も生徒Hと同様に、道徳の時間と教科等を関連させて学習テーマを追究することで多面的・多角的に考え、道徳的価値について考えを深め、広げていったことが、テーマノートの記述から伺える。

表13 生徒Hのテーマノートに記述した過程の記録 抜粋

〔課題の設定〕	【テーマに対する自分の考え方（最初）】 ・笑顔でいさつをする。・こまめに声をかける。 ・学校の話とか今日あつたことを話す。 ・地域で取り組んでいる活動に積極的に参加をする。
	道徳の時間【家族の一員として】 今日のお話は、どちらの人物の意見にも納得できた。 “一方的に”ではなく“お互い”が思いやりをもてたらいいのかなあと思った。少子高齢化に向けて、自分たちができるることをみんなで考えていくたい。
外国语科	・最近の福祉施設ではロボットが使われている ロボット → お年寄りを運ぶ、お年寄りと話す ロボットを使うのは少子高齢化問題から仕方ない
家庭分野	・物忘れ等の記憶力低下 ・80才の自分を体験した 体が重かった→自分たちが普段する動きを80才の体でやるとすごく大変だった 目が見えにくかった→一段差がよく分からなかったり、文字が読みにくかったりした ・“死”への恐怖 ・これからどうなるのか
技術分野	・介護する側が付けるロボット ・介護される側が付けるロボット 〔困った〕 体に負担がかかりにくそう 〔悪〕 装着が難しそう…
美術科	ユニバーサルデザイン ・たくさんの人々が利用しやすいように製品やサービス、環境をデザインする考え方
音楽療法	音楽療法 ・子供やお年寄りに向けて→心身の障害の改善 生活の質の向上を目指す ・アメリカで盛んに行われている
学校図書館の活用	高齢者は病気になりやすくなる ・一人暮らしの場合→気付きにくい 気付いても交通費や交通手段なし→不安が募る 高齢者の住まいに手すりを付ける 〔困った〕 歩きやすくなったり、つかまつたりできる 〔悪〕 費用 交通面に不安があると思う ・車のスピード、車の多さ、交通手段（買い物や病院）、視力、聴力低下（信号を間違えてしまう）
道徳の時間	【思いやりとは】 普段の生活でやっている「挨拶」や「会話」から 思いやりの行動に繋がるんだな、と感じた。これからもたくさんの人と関わっていきたい。また、思いやりを大切にしていきたいなあと思った。
〔振り返り〕	【テーマに対する自分の考え方（最後）】 高齢者が安心して生活できる社会にするためにどうしたらいいのか初めて考えたときには、自分達（若い人）が中心にならなくて頑張らないと、と思っていたけど、そうではないのかかもしれないと思った。高齢の方も自分達、若者も、お互いのことを想って生活をしていかないと安心して生活できる社会は作れないと思う。高齢の方のこととも、一緒に高齢者を支え合う仲間のことも気にかけないといけないと思った。みんなが安心して生活できる社会をみんなで作っていきたい。

以上のことから、「課題発見・解決学習」の過程の中に道徳の時間と教科等を位置付け、その追究過程を記録するテーマノートは、道徳の時間と教科等

の関連を生かした学習プログラムにおいて有効であることが分かった。

IX 研究のまとめ

1 研究の成果

「課題発見・解決学習」の過程を取り入れ、道徳の時間と教科等を関連付けた複数主題複数時間扱いの学習プログラムが、現代的な課題を主体的に追究することに有効であることが分かった。また、道徳の時間と教科等の関連を生かすためには、〔課題の設定〕に当たる道徳の時間で見いだした課題の解決策を、〔情報の収集〕に当たる教科等で模索できるような追究過程とし、追究していく学習テーマを設定し、その追究過程を記録するテーマノートの活用が有効であることも分かった。

2 今後の課題

道徳の時間で見いだした課題の解決策を教科等で模索していく追究過程は一例である。今後は各教科の学習の特質を考慮し、他の関連のさせ方を模索していく。また、本校の道徳教育重点目標に関わる道徳的価値についても道徳の時間と教科等の関連を生かした学習プログラムを開発するとともに、それらの学習プログラムを道徳教育年間指導計画に位置付け、組織的に道徳教育を推進していく。

【注】

- (1) 広島県教育委員会（平成29年）：『広島県教育資料』p. 102を基に稿者が作成した。

【引用文献】

- 1) 広島県教育委員会（平成29年）：『広島県教育資料』p. 47
- 【参考文献】
- 栗林芳樹（2016）：『特別の教科道徳Q&A』ミネルヴァ書房
 - 生涯学習審議会（平成4年）：『今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について（答申）』
 - 田沼茂紀 編著（2017）：『中学校道徳アクティブ・ラーニングに変える7つのアプローチ』明治図書出版
 - 田沼茂紀（2016）：『道徳科で育む21世紀型道徳力』北樹出版
 - 村松聰（2002）：「人格」『事典 哲学の木』株式会社講談社
 - 永田繁雄（2016）：「学習テーマは最初に置くのか、中心段階なのか」『道徳教育 12月号』明治図書出版
 - 西野真由美（2016）：「『特別な教科 道徳』の指導法」『教育展望 6月号』（一財）教育調査研究所
 - 沼田義博（2016）：「評価にも役立つ！『道徳ノート活用法』『道徳教育 4月号』『道徳教育 5月号』明治図書出版
 - 原田正樹（2017）：「福祉教育」『道徳教育 2月号』明治図書出版